

『レディ・バード』	原題 <i>Lady Bird</i> 2017 年	執筆：清水 純子
製作国	アメリカ	
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	スタッフ： 監督グレッタ・ガーウィグ/ 製作 スコット・ルーディン, イーライ・ブッシュエブリン・オニール/ 製作総指揮リラ・ヤコブ/ キャスト：シアーシャ・ローナン: クリスティン・マクファーソン (レディ・バード) / ローリー・メトカーフ: マリオン・マクファーソン/ トレイシー・レッツ: ラリー・マクファーソン/ ルーカス・ヘッジズ: ダニー・オニール/ ティモシー・シャラメ:カイル・シャイブル/	
画像	 <p>(C)2017 InterActiveCorp Films, LLC./Merie Wallace, courtesy of A24</p>	
カラー・モノクロ	カラー	
時間	94 分	
ストーリー	<p>2002年カリフォルニア州サクラメントのカトリック系女子高に通うレディ・バードを名乗るクリスティンは、厳しい戒律と田舎町の閉塞感を嫌い、NYの大学進学を目指す。しかし父親が失業して、看護師の母親が生計を支える一家は経済的余裕がなく、かつ地元志向の母親とレディ・バードは対立していた。優等生でないレディ・バードは、親の目を盗んで童貞だとうそぶくカイルに処女を捧げて騙されたり、裕福な同級生への劣等感から嘘をついたり、失敗と挫折を繰り返しながらもNYの大学に補欠合格し、奨学金を得る。父は賛成だが、反対する母と和解しないまま、レディ・バードはNYに旅立つ。NYで慣れない酒を飲んで意識不明になったレディ・バードは退院後、カトリック教会のミサに出席し、母を思い出す。レディ・バードは故郷と家族の大切さに気づき、母に詫びの電話をする。</p>	

時代設定	2002 年
場所	カリフォルニア州サクラメント
社会背景	2001 年 9 月 11 日の同時多発テロ事件の直後で、愛国主義と国土防衛の緊張が NY 中心に顕著になる。ジョージ・ブッシュ大統領による第二次イラク戦争の開始。インターネット・バブル（2000 年から 2001 年にかけて花形産業だと思われていたインターネット IT 関連産業の業績が悪化して倒産するベンチャー企業が多く出た）。
文化的背景	アメリカの西海岸と東海岸の文化的背景の違い。田園風で親しみやすくオープンな西海岸に対して、NY をはじめとする東海岸はドライで冷たいが異文化交流が盛んで多様性と刺激に満ちている。有名になりたい、出世したい意欲と野心のある若者はニューヨークを目指す傾向がある。
使用言語	英語
テーマ	若者の文化、ジェネレーション・ギャップ、教育、家族、失業問題、アメリカの東と西の文化の違い。
みどころ	父親の失業によって家運が傾く中で、必死に未来を模索する女子高校生のすがすがしく共感を呼ぶ姿。ヒロインのレディ・バードは、欠点も失敗も多いが、母の反対を押し切って自分の道を切り開くその勇気と行動力に拍手。
印象深いせりふ	<p>LADY BIRD : (really picking a fight) I don't even want to go to school in this state anyway, I hate California. I want to go to the East Coast.</p> <p>MARION : Your Dad and I will barely be able to afford in-state tuition.</p> <p>LADY BIRD : There are loans, scholarships!</p> <p>MARION Your brother, your very smart brother, can't even find a job --</p> <p>LADY BIRD : He and Shelly work. They have jobs.</p> <p>MARION : THEY BAG AT THE GROCERY STORE. That is not a career and they went to ERKELEY.</p> <p>MARION: Your father's company is laying people off right and left, did you know that? No of course not because you don't care about anyone but yourself.</p> <p>MARION: Imaculate Heart is already a luxury.</p> <p>LADY BIRD: Immaculate FART. You wanted that, not me! . . .</p> <p>LADY BIRD : I want to go where culture is, like New York.</p> <p>MARION : How in the world did I raise such a SNOB。</p> <p>LADY BIRD : Or at least Connecticut or New Hampshire. Where writers live in the woods.</p> <p>Marion: You couldn't get into those schools anyway. . . .</p> <p>LADY BIRD : MY NAME IS LADY BIRD!</p> <p>MARION : (CONT'D) Well actually, it's not, and it's ridiculous. Your name is Christine.</p> <p>LADY BIRD: CALL ME LADY BIRD LIKE YOU SAID YOU WOULD!</p>

	MARION : You should just go to City College, with your work ethic. City College and then to jail then back to City College. Maybe you'd learn how to pull yourself up and not expect everyone to do everything for you...
授業教材用 メリット	アメリカの学園生活や大学進学事情がリアルに描かれているので、学生の共感と興味を呼ぶ。若い世代の悩みと希望が上手に描かれている。日本とアメリカの教育システムの違い、若者のライフスタイルの違いがわかる。親子間の意見の相違食い違いも説得力がある。日常的に使える英語が満載。
授業教材用 デメリット	どこにでもありそうな話で際立った目新しさはない。
映像入手元	ユニヴァーサル・ピクチャーズ
原作の有無	無
支持反応	metacritic 評価 (批評家 94、観客 7.4) Rotten Tomatoes 評価 (批評家 99、観客 7.9)
キーワード	高校生活、カトリック系女子高、カリフォルニア州、ニューヨーク、大学進学、ボーイフレンド、家族、地元意識、大都会へのあこがれ、若者、ジェネレーション・ギャップ、失業問題、養子、ゲイ、初体験。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。